

柔道整復学総論 I		講義	教授 川崎 一朗
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351101

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は、「骨折、脱臼、打撲、捻挫等」といった運動器に対する急性の外傷性疾患に対して保存的治療を行うことを業務としている。この授業では、骨の損傷における基礎的知識（様々な骨折の分類法、骨折時の局所または全身の症状、骨折時に起こる合併症、小児骨折と高齢者骨折の特徴、骨折後の治癒経過と予後など）とその評価法や治療法（一般的な整復法、固定法、後療法など）について学習する。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス、柔道整復師の沿革、業務範囲 2. 柔道整復術の概論、損傷時の身体の基礎的状態、損傷時の外力 3. 骨の損傷①（骨の形態と機能） 4. 骨の損傷②（分類） 5. 骨の損傷③（症状） 6. 骨の損傷④（併発症、続発症） 7. 骨の損傷⑤（後遺症） 8. 骨の損傷⑥（小児骨折と高齢者骨折の特徴）	9. 骨の損傷⑦（癒合日数、治癒経過） 10. 骨の損傷⑧（予後、治癒の影響因子） 11. 評価法、治療法①（骨折の整復法） 12. 治療法②（固定法） 13. 治療法③（手技療法、運動療法） 14. 治療法④（物理療法） 15. まとめ
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、運動器に対する急性の外傷性疾患を評価し治療する上で必要な専門的知識や技術の基礎となる総論的事項を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂 7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。